

## 「試練の時、主イエスは語りかける」

### マルコによる福音書 6章 45～52節

日本ナザレン教団小山キリスト教会牧師・本学講師 石田 学

わたしたちの生涯には、「どうして」と問わざるを得ないことが起きます。望まない試練に遭う、思いがけない禍に苦しめられる。そういう体験を、わたしたちは重ねてまいります。きょうのマルコ福音書の箇所は、弟子たちがそうした不本意な体験をイエス様に強いられた出来事です。

イエス様は弟子たちに、夕暮れになってから舟を出して、対岸のベトサイダに向かえと命じられるのです。山から吹き下ろす風が強くなる夕暮れに、なぜ舟を漕ぎ出さねばならないのか、説明はありません。望んでいない不本意な体験を、わけがわからないまま、弟子たちは強いられるのです。予想していた通りの事態が起きます。湖の真ん中で逆風にさらされ、漕ぎ進めることができません。暗闇の中で転覆の危険にさらされ、生きた心地がしなかったことでしょう。陸地にいて一人祈っていたイエス様は、そんな弟子たちの様子を知らなかったわけではありません。彼らが漕ぎ悩んでいるのを見ていたと、マルコは証言しています。イエス様は、夜明け前になってから湖の上を歩いて、弟子たちのところにやっけてまいります。

どうしてすぐに来てくださらないのか。苦難の時、神に助けを求め、イエス様に呼びかけ、祈り、しかし祈りがすぐには聞かれず、神の助けも来ないように感じる。そんな体験をわたしたちもします。およそ十時間が経過したころ、イエス様が湖面を歩いてやっけて来ます。幽霊が迫ってくると思い込んだ弟子たちに、イエス様は三つの言葉を語りかけたのでした。「安心しなさい」、「わたしだ」、「恐れるな」と。

家族や友が苦難に遭って意気消沈し、恐怖や不安に苛まれているとき、「安心して」「大丈夫」と言って励ますことは誰にでもできます。だが、なぜ安心できるのか、なぜ恐れる必要がないのか、その根拠を告げることは、人にはできません。それは神だけができることです。

イエス様はこの時、もう一つの言葉を弟子たちに告げました。「わたしだ」。これこそ、安心すること、恐れないでいられることの、根拠であり保証であり、神の約束です。「わたしだ」と訳された言葉、ギリシア語で「エゴ・エイミ」は、英語にすると I AM です。これは神がご自分を表す言葉であり、神の臨在を示す言葉でした。イエス様が言われたこの言葉は、ご自分がイエスだということだけではなく、ご自分が神、しかも彼らと共にいる神であることの宣言です。神が共におられる。それがわたしである。この宣言こそが「安心すること」、「恐れる必要がない」ことの、たしかな根拠です。「わたしがいる」。だから安心して、恐れないでいなさい。この力強い恵みの言葉を、今もわたしたちが試練や禍の中にある時、イエス様は語りかけてくださいます。わたしは今年の8月、母を天に送りました。死の間際、「いろいろありがとう」「愛しているよ」と語りかけました。しかし、「イエス様が共にいて、天の御国まで導いてくださるからね」そう告げた時に、母はもっとも安心した様子でした。

わたしたちが試練にさらされている時、禍の中にあるその時、主イエスはこの恵みの言葉を、今もわたしたちに告げてくださいます。

「安心なさい、わたしが共にいる、恐れるな。」

祈ります。

恵み深い天の父である神さま、わたしたちが困難や試練の中にあるときも、主イエス・キリストが常に共にいてくださることを信じて、安心して、恐れずに生きることができるよう、励ましと力を与えてください。わたしたちの主であるイエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

2020年10月21日 聖学院大学 全学シリーズ礼拝「苦難を乗り越える」